**公的年金保険を題材としたモデル授業②指導案**

○授業の目標

・人生、とくに高齢期の生活にはどのようなリスクが潜んでいるのか、リスクに対してどのような考え方があるのかを理解する。

・高齢期の生活を維持するために世代を超えて支え合うとはどういうことなのかということ、その周辺にある課題について考察し、論拠をもって表現する。

【１時間目】

|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点  （社会保障教育の視点） |
| --- | --- | --- | --- |
| 【問い】持続可能な社会保障の在り方はどうあるべきか。 | | | |
| １　年金をどうするのか？ 政策を選んでみよう！ | | | |
| 導入  10分 | (1)場面設定 | 本時の課題架空の国を作って、その国の人が公的年金保険についてどう考えるか、考えてみよう。  ○架空の国の状況設定を確認し、その国の名前をみんなで決める。  ・本時は架空の国を設定して考えていくことを知る。  ・設定する国の状況を具体的に理解する。  　人口40人（クラスの人数が40人の場合）  ･･･高齢者50％  若者50％    　主な産業･･･ものづくり  　　　　　　 農業  　　　　　　 運ぶ仕事  　　　　　　 売る仕事  　通貨･･･円  　物価･･･現在の日本の物価と似ている  　財政赤字･･･約1,000兆円  ※社会のしくみはほとんど日本と同じという設定。 | ○国の名前は、この授業を実践するときの季節を表す名前にするとよい。例えば春に授業を行うならば「サクラ国」、夏ならば「スイカ国」など。  ※設定する国の状況は、考えやすいように単純化し、極端な設定としているが、生徒の理解度に応じて、より現実に近い設定としてもよい。 |
| 展開①  5分 | (2)キャラクター設定のためのツール配布 | ①これから番号が書かれたカードをもらうことを知る。注意事項は次のとおりであることを理解する。  　(1)一人ひとり異なる番号のカードが配布される。その番号を他者に知られることがないように注意する。  　(2)本時はこの番号で指示があるので、指示中の番号を聞き逃さないように注意する。  ② 実際に番号が書かれたカードを受け取る。  ③ 全員が「高齢者」のカードと「若者」のカードを受け取る。 | ○下記のツールを人数分用意し、左記の注意事項を説明しつつ配布する。  ・生徒配布用ツール１（番号カード）　生徒１人につき異なる番号のカードを１枚ずつ  ・生徒配布用ツール２（キャラクター設定カード）　生徒１人につき２種類のカードを１枚ずつ |
| 展開②  5分 | (3)番号カードでキャラクターを設定 | ① クラス全員が配布された番号により、ど 　ちらかのキャラクターになりきって考えることを知る。  ② 配布された番号が「１～２０」までの人　 は「若者」という設定になるので、「若者」のカードを見る。  ③ 配布された番号が「２１～４０」までの  人は「高齢者」という設定になるので、「高齢者」のカードを見る。  ④ 「若者」及び「高齢者」に関する情報は次のようなものであることを理解する。  高齢者  仕事は引退している  貯金は500万円ある  年金を年間100万円もらっている  普通の生活をするためには年間で200万円必要  若者（生産年齢人口）  年収400万円  支出  生活費： 200万円  　貯金　： 100万円  　納税　： 50万円  　社会保険料： 50万円 | ※クラスの人数が40人であるという前提で記述していることから、人数が異なる場合は、「若者」と「高齢者」の割合が人口構成と同じになるように調整する。  ○「高齢者」に割り当てられた者はカードを見て毎月使える金額を計算するように指示する。  ○「若者」に割り当てられた者は年収と支出のイメージを共有させるように指示する。  ※それぞれのキャラクターの設定は、考えやすいように単純化し、極端なものとしているが、生徒の理解度に応じて、より現実に近い設定としてもよい。 |
| 展開③  10分 | (4)高齢者の生活を支える仕組みを考える① | ① 長生きをしたときに、自分の力だけで生活することが難しいことを理解する。  ②　カードを見て、サクラ国（仮に「サクラ国」とする。）では若者がどのくらい負担しなければいけないのかを計算する。  例）40人のクラスの場合  　　　・高齢者は20人で若者は20人  　　　・高齢者は年間100万円の年金をもらう。ギリギリの生活を心掛けつつ、貯金を使う。  　　　・若者は社会保険料を50万円納めている。  ・この50万円を100万円に増やして高齢者がもらえる年金をもう少し増やしてもらえないだろうか？  ③ 投票用紙をもらい２カ所に○印をつけて投票する。  投票用紙  ☆ どちらかに○印をつけてください  私は（若者・高齢者）です  １）若者の方↓  　　 社会保険料を100万円納めることに  　 　Ｙ／Ｎ（←どちらかに○印）  ２）高齢者の方↓  若者に社会保険料100万円を納めてほしいですか？  　 　Ｙ／Ｎ（←どちらかに○印）  ④ クラスの誰かが開票して読み上げる。 | ○高齢者の生活に必要な費用とその賄い方について生徒に発問を繰り返しながら、「高齢者の生活を支える仕組み」について理解させるよう心掛ける。  ○生徒配布用ツール３（投票用紙）をクラスの人数分用意し、１人１枚配布する。  ・投票するときに、なぜその選択をしたのかという理由を可視化させるように留意する。  ・誰が「若者」で誰が「高齢者」なのかはわからないという前提を守りとおす。  ○黒板に開票結果を書く。 |
| 展開④  5分 | (5)高齢者の生活を支える仕組みを考える② | ① 展開③からなりきるキャラクターを変更することを理解する。  ② 配布された番号が「２１～４０」までの　 人は「若者」という設定になるので、「若者」のカードを見る。  ③ 配布された番号が「１～２０」までの人は「高齢者」という設定になるので、「高齢者」のカードを見る。  ④ ２枚目の投票用紙をもらい２カ所に○印をつけて投票する。  ⑤ クラスの誰かが開票して読み上げる。 | ○なりきるキャラクターを変更することによって、以下に気付かせる。  ・時間軸を意識した役割分担の変化。  ・若者の時と高齢者の時との役割の違い  ※この考え方を指導者がはじめから示すのではなく、問答を繰り返す中で生徒に発言させ、生徒自身で気付けるように導く。  ○生徒配布用ツール３（投票用紙）をクラスの人数分用意し、１人１枚配布する。  ○黒板に、展開③の開票結果と並べて展開④の開票結果を書く。 |
| 展開⑤  5分 | (6) 高齢者の生活を支えるためにはどのような工夫が必要なのか？ | ① ２回の投票を終えて気が付いたことを発言する。  ・誰もが若者から高齢者になること。  ・支える人と支えられる人の役割が順番に来るということ。  ・今のことを想像することも大切だが未来のことも想像できる市民にならなければいけないということに気付く。  ② 黒板に書かれた①の気付きや２つの開票結果を見ながら、高齢者の生活を支えるためにはどのような工夫が必要なのかを考える。  ＜考え方１＞  　高齢者に生活レベルを下げてもらうという考え方  ＜考え方２＞  　高齢者の年金を確保するために若者はしっかりと社会保険料を納めてほしいという考え方  ＜考え方３＞  　国は借金をしてでも高齢者を支えなければいけないのではないかという考え方  ＜考え方４＞  　高齢者も働くことで収入を得ればよいではないかという考え方  ③どうして社会保険料を納めなければいけないのか？という問いを共有する。 | ○気が付いたことを発言させ、発言を整理して板書する。  ○「若者」と「高齢者」がそれぞれどのような考え方で投票していたのか、クラス全体に問いかけて発言させ、発言を整理して板書する。  ○考え方１、３、４だけでは限界があることに気付かせ、考え方２の重要性を実感させる。 |
| 展開⑥  5分 | (7) サクラ国の危機 | ① ここまで学習してきたサクラ国に危機的状況が忍び込んでいることを理解する。  ② 番号が書かれたカードを見て、今度は「１～１０」 までが「若者」、「１１～最後」までが「高齢者」という設定となることを理解し、気付いたことを発言する。  ③ その危機とは少子高齢化問題であることを知る。 | ○この状況がどのような危機であるのか、気付いたことを発言させる。  ※「少子高齢化」という用語を生徒がどのくらい理解しているのかを探りながら、必要な補足を加えつつ授業を進めていく。 |
| まとめ  5分 | 何が問題なのか？どのようなことを考えなくてはいけないのか？ | ① 本時の振り返り  ・架空の国における社会保険料について考えたことを確認する。  ・この国は少子高齢化が極端に進んでいることを確認する。  ・高齢者には高齢者の意見が、若者には若者の意見があることを確認する。  ・皆が幸福を求めていることも確認する。  ・誰しもが若者の時代と高齢者の時代を迎えることを理解する。  ・どうして社会保険料を納める必要があるの　　か？という問題をクラス全員で共有したことを確認する。  ② 次の時間に考えることの共有  ・少子高齢化が進む中で高齢者の生活を支えるためにはどのような工夫をすればよいのかを皆で考えることを確認する。 | ○生徒が時間軸を意識できるようにする。「今だけを考えるということ」と「未来のことを考えるということ」の両方の視点をもって諸課題を考えていくことの重要性を気付かせる。  ○知識の前提となる「枠組み」（社会保障の理念である「支え合い」の意義の理解）のない状態で知識を教えても、生徒のなかではバラバラでつながりのない知識になってしまうという考え方に基づき、本時ではその「枠組み」形成を目指すことに重点を置く。そのうえで、２時間目に社会保障に関する様々な知識を教えることで、生徒が得た知識を自分の中でつなげていくことができるようにする。 |

【２時間目】

|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点  （社会保障教育の視点） |
| --- | --- | --- | --- |
| ２　サクラ国の未来を考えるプロジェクト | | | |
| 導入  ５分 | 前の時間の復習と本時の目標の確認 | 本時の課題少子高齢化が進むサクラ国の未来を救うためにはどうすればよいか、考えてみよう。  ○前の時間には、架空のサクラ国が教科書に書かれているような少子高齢社会に向かっていることがわかった。  ○サクラ国は、少子高齢化が進む前は社会の仕組みがうまく回っていた。  ○ところが、少子高齢化が進んだことで年金に関して問題点が出てきたことを理解する。  ○サクラ国を持続可能な国にするためにどのような工夫が必要なのかを考える。 | ○前の時間に行った投票結果を分析したプリントを作成して配布する。  ○高齢者　７０％  若者　　３０％  の社会を想定する。  ※設定する国の状況は、考えやすいように単純化し、極端な設定としているが、生徒の理解度に応じて、より現実に近い設定としてもよい。 |
| 展開①  15分 | (1) 似たような国はないのか？ | ○少子高齢社会になりそうなサクラ国にとってこれからの政策を考えるにあたって参考になる国はないかを考える。  ・すぐに「日本」ということに気がつく。  ○日本の現状を分析し、サクラ国の政策にどのように活かすことができるかを考えることが本時の問題意識であることを理解する。  ○公的年金保険には、高齢者が受け取る年金の原資がどこから来るのかによって２種類の考え方があることを理解する。  ○日本の公的年金保険がどちらの考え方を採用していると思うか、調査用紙に匿名で記入して提出する。  ○クラスの誰かが集計して読み上げる。  ○副教材を見ながら、日本のデータを分析する。  発問１日本は昔から核家族が多かったのか？  ・副教材p.1「家族をめぐる代表的な変化」のうち、家族の人数に着目する。  発問２日本はどのように高齢者の生活を支えているのか？  ・副教材p.2「公的年金保険は「仕送り」を社会化したもの」を見て、先ほど理解した「賦課方式」が「現役世代が納めた社会保険料をその時々の高齢者の年金給付に充てる」という「仕送り」を社会化した仕組みであることを理解する。  発問３どうして日本は積立方式でない　　　　　のか？  ・副教材p.3「今と昔の物価の違い」を見て、昔は100円でいろいろなものが買えたが、今ではどれも100円では買えないことに気付く。  ・同じ金額でも長い期間を経るとその価値が下がってしまうことがあることから、積み立てておくだけではいざというときに足りなくなる可能性があることを理解する。  発問４ 賦課方式の課題は何か？  ・副教材p.4「高齢者１人を支える現役世代の人数」を見て、賦課方式の場合には、少子高齢化が進むと、（現役世代の１人当たりの社会保障を支える力が変わらなければ、）高齢者を支えるための現役世代の社会保険料負担が重くなることを理解する。  ○賦課方式の課題を克服するためにどのような工夫をしているのかについて理解する。  ・日本においては、将来の高齢化の進展に備えて積立金を保有しており、その活用によって将来世代の社会保険料水準が高くなりすぎないような仕組みとしていることを理解する。  （・さらに、支払われる年金の全体の額が増えすぎないように、物価・賃金が上がったときの年金額の上げ方を、物価・賃金の上がり方よりも少し緩やかにすることによって、自動的に調整する仕組み（マクロ経済スライド）が取り入れられていることを理解する。）  ・また、年金制度の中での工夫だけではなく、技術革新や女性活躍等の働き手の増加策により現役世代の１人当たりの社会保障を支える力を向上させたり、働くことができる高齢者にも支え手になってもらったりするという方法もあることを理解する。（この図が、現役世代１人当たりの社会保障を支える力が同じであることが前提となっているという説明や、１時間目の展開⑤で、公的年金保険の活用以外にも「高齢者も働くことで収入を得ればよいではないかという考え方」があったことを思い出す。） | ○サクラ国は複雑な変数を除いたモデルのようなイメージで考えていることを留意して指導する。  ○指導者が指示しなくても、これは日本のことを考えているのかもしれないという生徒の気付きを把握して、発言させる。  ○知識の整理を行うため、生徒配布用ツール４（調査用紙）を１人１枚配布し、２つの仕組み（積立方式・賦課方式）の違いについて説明したうえで、日本の公的年金保険がどちらの考え方を採用していると思うか匿名で記入させる。  ○集計結果を黒板に書き、正解（考え方２）を発表する。  ○資料を単なる数値の変化として読み取るのではなく、資料全体が何をメッセージとして発信しているのかを読み取らせるよう留意する。  ○この図は、現役世代（働いているか否かにかかわらず年齢で機械的に定義）１人当たりの社会保障を支える力が同じであることが前提となっていることに留意する。実際には、技術革新による生産性の向上や女性活躍推進等による働き手の増加等により、現役世代1人当たりの負担は単純な人数比の変化ほどは増加していないことを補足する。  ○現役世代の社会保険料負担には限界があることに気付かせ、足りない分を賄う方法としてどのような方法があるか、考えさせる。ここで、先ほど学んだ積立方式が応用できることに気付かせる。  ※１時間目の展開⑤で「高齢者に生活レベルを下げてもらうという考え方」について考えたことを思い出させ、いきなり大幅に年金額を下げることは高齢者の生活への影響が大きくなり難しいが、少しだけであればこうした工夫もできるのではないかということに気付かせ、マクロ経済スライドの説明をしてもよい。（マクロ経済スライドのイメージについては年金①副教材p.16参照。）  ○また、年金制度を変えるだけではなく、現役世代１人当たりの社会保障を支える力を高めていくことも必要であることに気付かせる。  ○さらに、１時間目の展開⑤で「高齢者も働くことで収入を得ればよいではないかという考え方」について考えたことを思い出させつつ、コラム「高齢者の就業機会の確保」を参考に、働きたい高齢者が働き続けることができるよう、定年の引上げ等の動きがあることを説明する。 |
| 展開②  10分 | (2)サクラ国の未来を考えるプロジェクト | ○似たような国としての日本の調査が終了したことを理解する。  ○日本の事例をもとに「サクラ国の未来を　考えるプロジェクト」に取りかかる。  ・サクラ国の何が問題なのかを改めて整理する。  ・高齢者の意見と若者の意見を比較する。  ・幸福・正義・公正の枠組みで考えること　を理解する。 | ○日本の現状を参考にしてサクラ国の高齢者を支えるための新たな政策を考えさせる。  ○自分の要求を主張するということも大切。一方で、助け合うという精神がないと持続可能な社会の形成は難しいということも理解させる。 |
| 展開③  10分 | (3)日本の若者にメッセージを送る | ○少子高齢化が進む中で、サクラ国は高齢者を支え続けるためにどのような政策を考えるべきなのか。サクラ国国民として政府にメッセージを送る。 | ○生徒配布用ツール５（メッセージカード）を１人１枚配布し、少子高齢化が進む中で、サクラ国は高齢者を支え続けるためにどのような政策を考えるべきなのか記入させる。  ○実は自分自身に向けてのメッセージだということを指導者の口からは言わない。生徒に言わせるよう留意する。 |
| まとめ  10分 | ２時間の授業のまとめ | ○サクラ国はほぼ日本と同じ条件だが、複雑な要素をすべて排除した単純な仕組みで社会保障を考えたということを理解する。  ○日本の社会保障を利己的な視点と利他的な視点の両面から考えたことを理解する。 | ○あらゆる他の条件を一定にした状態でサクラ国という架空の国における社会保障を検討した。このモデルでの経験を日本の政策選択に活かすことができたかどうかに留意しながら振り返りをさせる。 |

【コラム】　　P.104～

〇高齢者の就業機会の確保

【その他参考となる資料】　　P.107

○厚生労働省ウェブページ　「年金広報」

○厚生労働省ウェブページ　「わたしとみんなの年金ポータル」

（生徒配布用ツール１）番号カード　※クラスの人数分用意する。

１

２

３

４

５

７

８

６

六

９

10

11

12

13

15

16

14

九

17

18

19

20

21

23

24

22

25

26

27

28

29

31

32

30

33

34

35

36

37

39

40

38

41

42

43

44

45

47

48

46

（生徒配布用ツール２）キャラクター設定カード　※それぞれクラスの人数分用意する。

高齢者

仕事は引退している

貯金は500万円

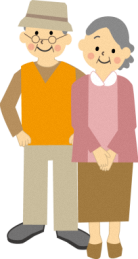
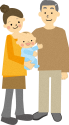
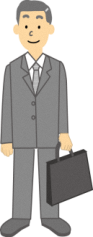
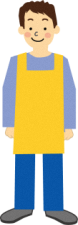
年金を年間100万円もらっている

普通の生活をするためには

年間で200万円必要

若者

|  |
| --- |
| 収入  400万円 |
| 支出  生 活 費 ：200万円  貯 　金 ：100万円  納　 税 ： 50万円  社会保険料 ： 50万円 |



（生徒配布用ツール３）投票用紙　※クラスの人数の２倍の枚数を用意する。

|  |
| --- |
| 投票用紙  ☆ どちらかに○印をつけてください  私は（ 若者 ・ 高齢者 ）です |
| １）若者の方↓  　　 社会保険料を１００万円納めることに  Ｙ ／ Ｎ （←どちらかに○印） |
| ２）高齢者の方↓  若者に社会保険料１００万円を納めてほしいですか？  Ｙ ／ Ｎ （←どちらかに○印） |

（生徒配布用ツール４）調査用紙　※クラスの人数分用意する。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 調査用紙  公的年金保険についてききます。  あなたは、日本の公的年金保険は次のどちらの考え方を採用していると思っていますか？　どちらかひとつを選んで○印を記入してください。  考え方１　年金は受給者自身が若いころから事前に積み立てていくという考え方  考え方２　年金は現時点での現役世代の人々（働いている人々）の社会保険料を現時点での高齢者に給付するという考え方  ↓どちらかに「○」を書き込んでください   |  |  | | --- | --- | | 考え方１ |  | | 考え方２ |  | |

（生徒配布用ツール５）メッセージカード　※クラスの人数分用意する。

|  |  |
| --- | --- |
| メッセージカード   |  | | --- | |  |   　　年　　組　　番 |

|  |  |
| --- | --- |
| メッセージカード   |  | | --- | |  |   　　年　　組　　番 |